

神 静 民 報

高柄足立
部 術 立 美 県

制作協力の観光看板

南足柄 夕日の滝広場でお披露目

観光スポットなど絵も描き

県立足柄高校(山本文美校長、同市怒田)の美術部(柳川結香部長)の生徒のデザイン画を基に作られた観光案内看板(1・8四方)が7日、同市矢倉沢の夕日の滝近くの広場に設置された。

除幕式には部員や市観光協会の鈴木陽一会長、加藤修平市長、山本校長らが出席し、完成を祝った。



観光案内看板の前で記念撮影に納まる出席者ら

代表してあいさつに立った鈴木会長は「夕日の滝は、春夏秋冬を通じて多くの観光客が訪れる。安心して豊かな自然を楽しめるよう、看板には20年、30年と観光客の役に立つてほしい」と語った。

続けて加藤市長は「互い(行政と学校)の力が結集してのまちづくりや観光事業の充実、発展が大切」と、山本校長は「地域に貢献する役割を果たせてよかった」と話した。式では、鈴木会長が同部に感謝状と記念品を贈った。

広場にはもともと観光案内看板があったが、設置から長い年月が経過し、老朽化が進んでいた。

今年6月、当時の府川治三教育長が「広い世代に親しんでもらうため、若い感性を取り入れたい」と思い立ち、同校美術部へデザイン図画の制作を依頼した。

部員らは、夏休み期間を利用して制作。石田万知さん(2年)の図案を基に、ほかの部員らのアイデアを盛り込んでいった。

看板にはイラストとして、夕日の滝を中心に、大雄山最乗寺や県立21世紀の森、芭蕉句碑などを掲載。市内の観光スポットをイメージした天狗や動物など、かわいいキャラクターも散りばめられている。

設置個所から足柄峠や金時山など、箱根外輪山をめぐるハイキングコースへの所要時間も記載し、実用性も高い。完成した看板を見て石田さんは、「アイデアがそのまま形になり、うれしい」と感想を話した。

観光客からは「一つひとつのイラストがいてねいに描かれ、見ていて楽しくなります」との声があり、早く大好評のよう。



夕日の滝周辺の観心地が、かわいいイラストで紹介されている